

眞富士山ルートマップより

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 修一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00005899">https://doi.org/10.14945/00005899</a>

## 真富士山ルートマップより

四年 松本修一

安倍川の漫流に沿って南北に走る平均高度約1,450~1,700米のきれいな一本の山嶺がある。その北端は安倍川源頭の1,917.9米に達し、安倍峠(1,416米)、十枚山(1,719米)、地蔵峠(1,407米)、オ一真富士(1,401米)、オニ真富士(1,345米)を経て大珠岳(龍爪山)(1,041米)に至り急に高度を失い、静岡市内駿河山となり、一旦安倍川の沖積平野となるが、再び高崖を得て、高草山塊(501.4米)を形成し、その南端は大崩海岸の景勝を呈し海中に没する。

この一連の山嶺はアルカリ火成岩の貫入をうけており、既知の如く高草山塊及び駿河山は殆んどアルカリ火成岩なり。前記大崩海岸にはPillow structure 及び Variolitic structure を持つ水中噴出岩と考えられるものと、これと貫入多くて Teschenite の岩脈が存在する。この火成岩の活動時期は大井川足の堆積期即ち、中新世前期のものであるとされている。又静岡の北の龍爪山にはアルカリ粗面岩の熔岩床が露出していることが明らかにされていて、これより北部については資料が不充分であるが、おそらくこの火成岩体は静岡糸魚川断層線に沿って相当に連続するものと思われ、富士川上流の西八代統中の駿河沢の Teschenite と一連のものと考えられる。この推定線上において、数ヶ所を踏破すれば、アルカリ岩脈及び静岡糸魚川断層線も確認されるであろうと考え、今回の調査を実施した。

静岡駅よりバスを利用して、安倍川畔をのぼること約1時間にて玉穂橋の手前六番停留所に達する。これより安倍川の左岸に沿って瀬戸川統の砂岩、頁岩の互層が連続する。この砂岩は硬質粗粒であり、頁岩は暗褐色を呈する砂質頁岩である。玉穂橋の上流500米に石灰岩の露出がある。CaCO<sub>3</sub>含有量は30~40%位と思われ、多くの方解石脈が存在しSiO<sub>2</sub>も相当に含有されているらしく、硬い岩石であるこの岩石全体の色は黒灰色を呈する。走向はこの辺の一般走向と同様であり、N20°E~N30°Eを示す。この石灰岩をすぎるあたりより次第に頁岩が優勢となり、各々のベットも50cm~1m位になる。

相灘に通ずる架橋の南方100米位の所より互层は見られなくなり砂質頁岩となる。この頁岩の中に蛇紋岩の貫入をうけたものと思われるような頁岩が約100位の中に存在し、長石の白映(1~2cm)を含んでいるものが露呈している。そしてこの砂質頁岩の中に中20位の赤褐色、粗粒砂岩が存在している。

蕨野の部落は安倍川の河岸段丘の上にある。この部落の上流100米位の所より200米位の所まで砂岩の露頭が連続している。この砂岩は前項の砂岩に通するものである。この附近は主として砂質頁岩よりなっているが若干の砂質頁岩の互层が存在し、各々のベートは約10厘米である。やがて安倍川のカーブの附近に達すれば殆んど頁岩となる。この頁岩は瀧沢河中に広く分布する帶緑黑色頁岩とよく似ていると思われる。この頁岩の中に約1~20位の中に、蛇紋岩の残波の浸入をうけていると思われるものがある。これは概略に通する架橋下流に露出するものと通ずるものであろう。この間ににおける一般走向はN $30^{\circ}$ E傾斜 $65^{\circ}$ Eであった。从此より横山の部落までは頁岩の連續である。

横山部落より八重沢にそって500米程遡れば頁岩の優勢な砂岩、頁岩の互层が続く。走向N $50^{\circ}$ W、傾斜 $80^{\circ}$ NEを示す。頁岩は砂質頁岩である。この八重沢の軒石としては砂岩が多く、稀に玄武岩質凝灰岩及び玄武岩が見られる。この溶岩は多孔質であり沸石によって充満されている。

大滝に向って況を進あはば殆んど砂質頁岩と砂岩の互层であり、大滝の下流約400~500米の地表に15米位の落差を有する水量も相当豊富を瀑布がある。この辺の一観走向はN $45^{\circ}$ E、傾斜は $75^{\circ}$ Eである。大滝西北方の尾根、第一真富士の西南方、水平距離1,000米あまり Teacherite に変化する。この境は露頭少なきため、いかなる關係で存在するかは認ることができなかつた。第一真富士の頂上までは全く Teacherite となつてゐるが、新鮮を至標本は採取困難である。この真富士は静岡市の觀光地として指定されており、北には重量感のある南アルプスの前衛の山々及び太谷崩の壯麗なる浸蝕崖が天空にまで達し、東には富士山の間に何物もはさまず鮮明に眺めることができ、南には静岡市及び延々と続く安倍川を一眼におさめることができ。かる。

第一真富士より墨部沢を下れば高度1,000米附近にて丁度に見かけたのは縦溝

砂岩頁岩の互層となる。各々のベットは 10~15 cm である。この互層の下盤に玄武岩質凝灰岩の數十米の厚が存在している。この凝灰岩の下盤には黒色頁岩が露出し、次第に凝灰岩質砂岩に移化する。一般走向は N10~30°W、傾斜は 40~45°E 位である。転石としては暗青緑色の凝灰岩砂岩が多く、輝緑凝灰岩流紋岩（アルカリ長石を含む）がある。この流紋岩中には黄鉄鉱の散在するものがある（鈴木氏採取）。カザマキ脇あたりに來ると転石として、再び輝緑凝灰岩が多くなって來る。この露頭を確認するだけの時間を持たなかつたが、相当の厚さのものが存在すると考へねばならない。カザマキ脇より下流 100 米の地表よりオ一真富士を見ればその左肩附近に断層崖らしきものが見られるが、果して断層崖か否か全く判明しないがその走向は N50°W、傾斜は 80°W である。カザマキ脇より平野に至る間は頁岩の優勢なる砂岩、頁岩の互層であり平野に近づくにつれて頁岩は節理が発達している。この間に一本の食弱な砾岩の厚を有する。走向 N-S であつた。特に興味をもつものはカザマキ脇の下流海拔 500 米前後（安倍川水面より約 300 米）の地域に河岸砾厚が相当の厚さにのつていた。この砾厚は猿峰に分布するものに相当するものであろう。この砾厚を調査するのも面白い問題であろうと思われる。平野の村落の大半は蕨野と同様に安倍川の河岸段丘の上に存在する。

以上を総合してみると真富士（オ一）の山頂附近には相当の範囲に Teacher-nite が存在することが確認され、その他は殆んど頁岩又は砂岩、頁岩の互層となり一般走向は N-S より N40°E 位であり、N40°E 内外の軸を有する背斜が考えられる。本地域に分布する頁岩及び石灰岩の様相よりして濱造沢層に相当するものではないであろうか。

